

専任教員の教育・研究業績

所属 スポーツ科学部	職名 教授	氏名 長尾 佳代子	大学院における研究 指導担当資格の有無	無	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概	要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
日本語技法演習 (基礎)	平成29年4月～現在に至る	必修科目である「日本語技法」への導入が難しい学生を対象に、補習内容を多く含み、進度も遅くした授業を設定した。入学時プレースメントテストで日本語語彙力が中学2年生程度レベル以下とされる学生にはこれを必修としている。学習支援室と連携して課題提出を確実にし、脱落者を減少させている。学生による授業評価は毎回、すべての項目で学部平均を大きく上回っている。			
日本語技法、日本語技法演習 (応用)	平成29年～現在に至る	25名程度以下の少人数クラスで頻回な作文添削指導を行っている。専任教員および非常勤講師合計10名程度が火曜日の1～3限に授業を同時開講し、学生は習熟度に応じたクラスで学ぶことができる。プレースメントテストやガイダンスは組織的に行い、授業では、本学のオリジナル教科書を使用する。学生による授業評価は毎回、すべての項目で学部平均を大きく上回っている。			
宗教学、文学	平成29年～現在に至る	教科書やハンドアウトの作成、関連する映像資料の紹介などにより、授業を理解しやすく、楽しく取り組めるものにする工夫をしている。授業内容に関連したNHK高校講座の紹介なども行い、必要に応じて高校履修内容を復習しながら取り組めるようにもしている。授業のサイトを整備しているほか、授業内容はビデオに収録し、欠席者等が借りだして自習できるようにもしている。学生による授業評価は毎回、すべての項目で学部平均を上回っている。			
eポートフォリオシステムを利用した提出物管理	平成29年～現在に至る	担当科目の出席管理はすべて、本学 堤裕之准教授が開発したeポートフォリオシステムで行い、評価の透明性と公平性を高めている。毎回の出席票にその日の課題を記入して提出させ、それを採点して翌週に返却しているが、このことは、学生の「書く力」の向上につながっていると考えている。また、そうして蓄積された提出物のデータは効果的な教育方法を研究するための資料として活用している。(下記学会発表資料などを参照)			
2 作成した教科書、教材、参考書					
『大学生・短大生のための日本語テキスト』(旺文社)	平成23年出版、改訂しながら現在使用中	全108頁。なにぶん大学新入生の寅男の入試から合格発表、前期授業の修了までに起こる様々な事件を描いた小説を読みながら、日本語語彙力を増強し新入生の大学生活での注意事項を学ぶ。「〈入学前初年次教育〉対象学習成果到達度システム 国語指導テキスト」として製作され、現在、大阪体育大学をはじめ多数の大学・短大で採用されている。			
『大学1年生のための日本語技法』(ナカニシヤ出版)	平成27年4月～現在に至る	全99頁。大学生が身につけるべき日本語技法の基礎事項が27のユニットで示されている。大阪体育大学の「日本語技法」授業用テキストとして製作され、大阪体育大学をはじめ多数の大学・短大で採用されている。			
『大阪体育大学 一般教育教科書叢書1 文学』(各年度版)	平成25年10月～令和3年10月	全108頁。「文学」の教科書として平成21年に簡易製本で第1刷を製作し、平成29年度時点で第15刷。『古事記』から現代文学まで文学作品を実際に読みながら、言語と文字、近代化の問題などを理解するための内容となっている。			
『大阪体育大学 一般教育教科書叢書2 宗教学』(各年度版)	平成29年～令和2年	全90頁。「宗教学」の教科書として、授業担当分のハンドアウトを配付する一方、授業のサイトからダウンロードできるようにもした。「国と宗教の関係」や代表的な6宗教の概略、学問としての「宗教学」が起こった経緯などを理解するための内容となっている。			
『大阪体育大学 一般教育教科書叢書2 宗教学』(令和3年版)	令和3年	全81頁。「宗教学」の教科書として、遠隔授業において動画やフォーラムの問題集と併用することを想定して製作したもの。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
日本語技法、日本語技法演習 (応用)	令和2年度	新型コロナウイルス感染拡大下において、専任および非常勤講師の授業担当者で分担して双方向遠隔授業を実施するための教材を作成し、GoogleClassroom 上で運用する体制を構築した。			
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含まない。）						
題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月	
その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）						
区分	題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
研究ノート	一般教育科目「社会学」集中講義の記録：体罰について学生に本気で考えさせる	単 長尾 佳代子	大阪体育大学紀要	48	161頁～175頁	平成29年3月
ラウンドテーブル報告	運動部学生の学業支援：大学スポーツ協会（UNIVAS）の支援事業と現場の取り組み	共 長倉富貴・長尾佳代子・小林勝法	大学教育学会誌	41.2	85頁～89頁	令和2年1月
随筆・随想	前編集委員長の覚え書き	単 長尾 佳代子	リメディアル教育研究	14	7頁～12頁	令和2年7月
研究ノート	The Gospel of Buddha 受容の諸相：福音か疑義か	単 長尾 佳代子	パーリ学仏教文化学	34	62頁～83頁	令和3年4月
学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国際（ラウンドテーブル）	平成30年10月	51st Annual CRLA Conference	The Learning Assistance System in Japan in 2018 “Examples of Academic-writing Support in Japan: Can American-style Writing Centers be Established More Widely in Japan’s Colleges and Universities?”	Hyatt Regency Albuquerque Albuquerque, NM	Kayoko Nagao	
国内（一般演題）	平成31年3月	鈴木大拙研究会 公開ワークショップ	南イリノイ大学のオープンコート社資料について	キャンパスプラザ京都	長尾佳代子	
国内（一般演題）	平成31年3月	日本リメディアル教育学会 第12回 関西支部大会	アメリカにおけるライティング支援施設の現況と日本におけるその影響	滋賀大学彦根キャンパス	長尾佳代子・壁谷一広	
国内（一般演題）	令和1年11月	オープンコート社資料報告研究会	2019 SIUC アーカイブ調査報告	高槻市生涯学習センター	長尾佳代子	
国内（他）	令和2年3月	鈴木大拙研究会（コロナ禍で中止された仏教史学会との共催ワークショップの代替）	南イリノイ大学所蔵オープンコート資料調査報告：シカゴ万博宗教学会議後、ヘゲラーを訪問した日本人が残した漢詩	高槻市 シェアアトリエ 福寿舎 蔵 ※オンラインで参加	長尾佳代子	
国内（一般演題）	令和2年6月	科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ	ポール・ケーラスにとっての日本の僧侶	オンライン	長尾佳代子	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費／その他の助成金／外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）	
科学研究費	基盤（C）17K01163 教育工学	学修（習）支援センターの実態調査およびピアサポーターのための教材開発	分担	2017年4月～2020年3月	¥4,680,000	
その他の助成金	三菱財団 三菱財団人文科学研究助成金 課題番号 01030（1）	鈴木大拙関係松ヶ岡文庫所蔵資料からみた近代禅仏教のネットワークに関する研究	分担	2018年4月～2020年3月	¥4,000,000	
科学研究費	基盤（C）17K02238 宗教学	日米の新資料による日本仏教グローバル化過程の研究―鈴木大拙を事例として	分担	2017年4月～2020年3月	¥4,420,000	
科学研究費	基盤（B）20H01192 宗教学関連	禅からZenへ―世界宗教学会議を通じた禅のグローバル化の宗教学・文化史的研究	分担	2020年4月～2024年3月	¥17,550,000	
特許						
特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
平成20年8月～現在	日本リメディアル教育学会 会員					
平成25年8月～平成29年8月	同学会理事、副会長（平成27年8月～平成29年8月）					
平成27年9月～令和1年8月	同学会誌『リメディアル教育研究』編集委員長					
令和1年8月～現在	同学会誌『リメディアル教育研究』編集委員会顧問、研究活性化委員					
平成22年5月～現在	大学教育学会 会員					
平成5年5月～現在	パーリ学仏教文化学会 会員					

平成7年11月～現在	仏教文学会 会員
平成7年11月～現在	説話・伝承学会 会員
平成2年4月～現在	早稲田大学東洋哲学会 会員
社会的活動	

IV 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
平成27年4月～平成31年3月	入試委員
平成28年4月～令和3年3月	人事委員
平成30年4月～令和2年3月	学生委員
令和3年4月～現在	教養教育センター主任・学習支援室長
特別プロジェクト活動	
令和3年4月～現在	ビジョン検討タスクフォース

V クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	新体操 部	2. 役職	2003～ 部長	3. 部員数	1 人
4. 現場指導の頻度	④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	0 回	延べ日数：	0 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
	第70回全日本学生新体操選手権大会		平成30年8月17日～8月19日	高崎アリーナ	
	第71回全日本学生新体操選手権大会		令和1年8月25日～8月27日	北九州市総合体育館	
	第72回全日本学生新体操選手権大会		令和2年10月25日～10月27日	エフビコアアリーナ福山	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間		大会名	成績	場 所	

VI 賞罰 (職務に関する賞罰)

年 月	受賞等機関名	内 容	備 考